

長野赤十字病院 がん治療センターだより

～地域向け情報発信（がん診療連携拠点病院指定要件準拠）～

第28号 （2023年5月31日発行）

病院長 和田 秀一 がん治療センター長 小山 茂

形成外科は頭頸部がんに対する再建手術を通じて 地域のがん診療に貢献しています

形成外科部長 三島 吉登

〈形成外科とは〉

形成外科は眼科や脳神経外科、泌尿器科といった特定の臓器や部位をもって診療する科ではありません。主に体表の組織におきた、さまざまな異常や変形、欠損に対して治療を行う外科系の専門科です。

がん診療という分野では、がんを切除する手術によって、患者さんの体の機能や生活の質が損われることを最小限にするよう、再建手術を行っています。

今回は頭頸部のがんに対する再建手術について紹介します。



1. 頭頸部のがんに対する再建とは

頭頸部がんとは、鼻、口、のどなどに生じるがんのことです。病名としては、上顎がん、舌がん、歯肉がん、中咽頭がん、下咽頭がん、喉頭がんなどが挙げられます。これらのがんの切除手術によって大きく組織が欠損した場合、しゃべる、噛む、飲み込むといった機能や、顔のかたちが損なわれてしまいます。このため、形成外科では頭頸部がんの手術を行う耳鼻咽喉科・頭頸部外科や歯科口腔外科と協力し、欠損した組織を修復する「再建手術」を行うことで、頭頸部がんの治療に貢献しています。

長野赤十字病院では年間10例程度の頭頸部再建手術を行っていますが、2022年度は15例と大きく増えました。再建手術を必要とするような進行した腫瘍となったのは、コロナ禍で受診を控えたことが影響しているかもしれません。



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

2. 再建手術の方法

再建手術では、失われた組織の代わりに、体の別の部位から組織を移植します。

移植といっても、ただ組織をとってきて貼り付けておけばよいわけではなく、移植した組織に血流がなければ生着しません。そのために「血管吻合」といって、移植する組織の血管と、欠損した部分に近い血管をつなぎ合わせます。この手術方法を「遊離皮弁」といいます。

顕微鏡や非常に細い糸の開発がすすみ、現在では1mmに満たない様な細い血管同士でも吻合できるようになりました。血管の状態や患者さんの状態が悪いときなどには血管吻合を行わず、胸のあたりから組織がつながった状態で移動させる、「有茎皮弁」という方法を行う場合もあります。

代表的な遊離皮弁を下に紹介します（図1）。

○前外側大腿皮弁

大腿から皮膚や脂肪をつけて移植する方法です。中程度の厚みがあり、大きさの自由度が高いため、さまざまな欠損の再建に使用します。血管の位置に個人差が多いため、手術中に悩むことがありますが、頭頸部から離れているので、がんを切除する手術と同時に形成外科も手術をすることができ、手術時間を短縮して患者さんの負担を軽減できます。歩けなくなるといったことはありません。

○前腕皮弁

前腕遠位部から皮膚や脂肪を採取し、橈骨動脈をつけて移植する方法です。薄くてしなやかな組織が必要な場合に使用します。手術のきずあとが目立ちやすい部位ではありますが、血管の個人差はほとんどなく、たいへん安定した皮弁です。

○腹直筋皮弁

腹直筋と、皮膚、脂肪をつけて組織を移植する方法です。腹部の脂肪は厚みがあるため、大きな欠損の充填に向いています。これも血管の個人差は少なく安定して使用できる皮弁です。

○腓骨皮弁

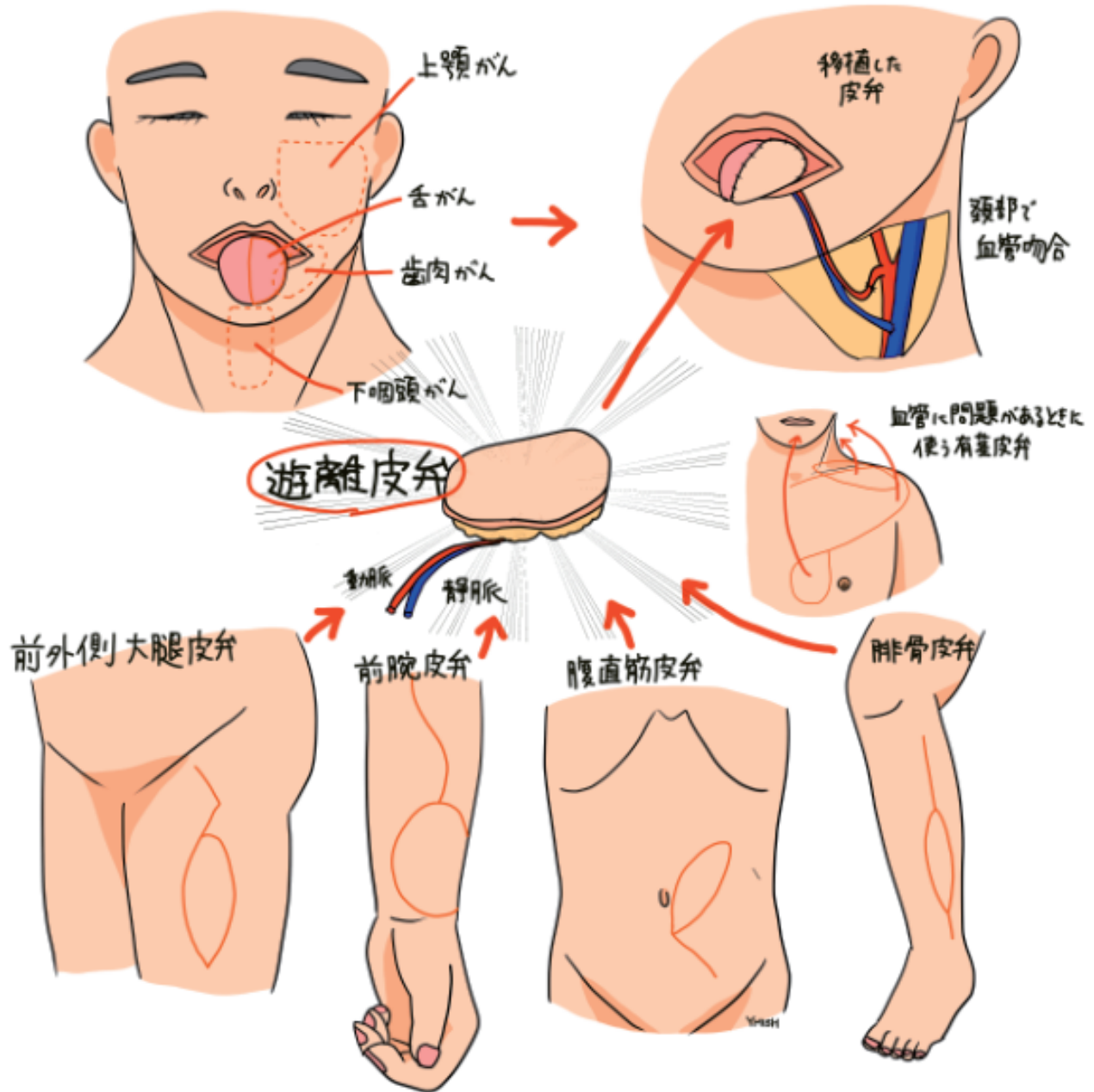
下腿には脛骨と腓骨という2本の骨があり、そのうち腓骨と皮膚、脂肪を採取して移植する方法です。がんを切除することで下顎骨が部分的になくなる場合に、腓骨を下顎骨の代わりに移植します。体重を支えるのはほとんど脛骨の役目なので、腓骨を採取しても歩けなくなることはありません。動脈硬化がある場合など、この手術が向かない方もいます。



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

長野赤十字病院

(図1)



作：三島

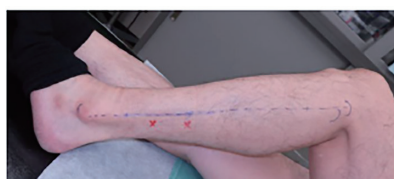
3. 下顎歯肉がんに対し、腓骨皮弁で再建を行った症例

歯科口腔外科で気管切開術、リンパ節郭清、下顎骨区域切除を行ったのち、形成外科で遊離腓骨皮弁を移植しました。

皮弁の動脈（腓骨動脈）は頸部で顔面動脈と吻合し、皮弁の静脈は内頸静脈へ流れ込む様に吻合しました。

下顎骨を失った部分に腓骨が無事生着し、右側の歯のかみ合わせは保たれ、外見も大きな変形がなく治癒しました（図2）。

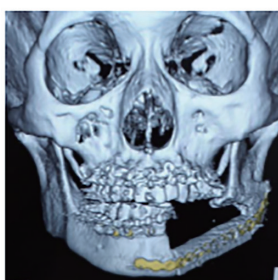
（図2）



下腿術前
腓骨皮弁を採取します。



下腿術後
皮弁をもらったところには植皮しています。



CT：腓骨がプレートで下顎骨に固定されています。



口腔内：左の下顎歯肉部に下腿の皮弁がみえています。右の歯で噛むことができます。

登録医の先生方へ



形成外科医師
左から澤口医師、三島医師、白井医師

長野赤十字病院形成外科では、再建手術を通じて頭頸部がん治療に貢献して参ります。先生方におかれましては頭頸部がんを疑う患者さんを耳鼻咽喉科・頭頸部外科、歯科口腔外科へご紹介いただけますようお願い申し上げます。しかし切除から再建までは長時間に及ぶ手術であり、患者さんには大きな侵襲となりますので、再建手術をせずにがんを切除できるに越したことはありません。今後とも早期発見にお力添えいただきますよう重ねてお願い申し上げます。



長野赤十字病院は地域がん診療連携拠点病院です

発行・連絡先
がん治療センター 事務局 がん診療連携課
TEL 026(226)4131 内線2205
E-mail ganshinryo@nagano-med.jrc.or.jp



長野赤十字病院

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society